

「サイエンスカフェ in 静岡」第 177 話（2024 年 12 月 5 日）

テーマ：「甲状腺ホルモンと動物の多様性」

講 師： 鈴木 雅一 （静岡大学理学部生物科学科 教授）

■ 参加人数 39 名

■ アンケート回答人数 27 名

■ ご職業

会社員：5	公務員：0	教員：6
自営業：1	主婦・主夫：1	
小学生：0	中学生：0	高校生・高専生：3
大学生・大学院生：2	その他：9	

■ 年齢

19 歳以下：3	20 歳代：3	30 歳代：4	40 歳代：1
50 歳代：1	60 歳代：10	70 歳以上：5	不明：0

■ ご住所

葵区：4	駿河区：7	清水区：11	焼津市：3
島田市：1	藤枝市：1	静岡県内その他：0	

■ この企画をどのようにお知りになりましたか。（複数回答有）

- ・継続参加による周知：13
- ・静大のサイエンスカフェホームページ：5
- ・サイエンスカフェのポスター（学校やバスで掲示されているもの）：4
- ・SNS を通じて（サイエンスカフェの Twitter を含む）：3
- ・職場などの情報回覧：4
- ・知人の紹介：3
- ・その他：1

■ 講演内容についてのご意見や感想・質問などをご自由にお書きください。

(いくつか質問に演者様からの回答を記載させていただきました)

(19 歳以下)

- 生物に興味があるので今回のサイエンスカフェはとても興味深かったです。次回も参加したいと思います。

(20 歳代)

- ヌタウナギでは、HTP が TH 前駆体として使われていて、貯蔵などが他の魚類とは異なる場所で行われていることを初めて知り、とても興味深いと思いました。

(30 歳代)

- ありがとうございました。
- とてもおもしろかったです。丁寧なご説明ありがとうございました。
- 群馬県出身です。なぜ群馬では甲状腺異常が多いか明らかになったのでしょうか。

(回答) 群馬大学の生体調節研究所(前身は内分泌研究所)設立 50 周年記念誌に、過去の歴史として、「群馬県は海のない内陸県であり、海藻などに含まれるヨード摂取不足のためか、甲状腺疾患がしばしば見いだされ、医学部では甲状腺を中心とするホルモン関連の研究が盛んでした」とあります。現在は、流通が整い、群馬県で特に甲状腺の病気が多いわけではないように思います。

(60 歳代)

- 甲状腺ホルモンの役割がよくわかりました。2 ページ目の下段左の図では気管の近くに配されていますが、気管近くにあるメリットはなんのでしょうか。アホロートルに甲状腺ホルモンを微量投与すると変態が促されるということですが、捕食された仲間が近くにあると体内からでた甲状腺ホルモンに影響されないものなのでしょうか。→「微量のため他の個体に影響する前に分解されるのでは」とのことありがとうございました。
- 甲状腺ホルモンの合成の仕組みが少しわかり、甲状腺ホルモンの作用についても知ることができました。
- 最新の研究成果をお話くださり、ありがとうございました。甲状腺ホルモンが生物の種によって異なる役割をもっている点についても興味深く聞かせてもらいました。化学者なので「なぜヨウ素？」という点も不思議に思いました。ヨウ素の”活性化”というのはなんのでしょうか？酸化あるいは還元のことでしょうか。

(回答) 甲状腺ホルモンが合成される過程で、ヨウ素イオンが酸化されてチロ

シン残基に結合します。

- ヌタウナギが哺乳類や魚類と異なり、原始的な動物であり、その甲状腺を研究することによって、その後の甲状腺機能を調べる上で鍵になることを知ることが出来て良かったです。

（ 70歳以上）

- なかなか難しいです。
- 甲状腺ホルモン研究の最前線の状況を報告いただいたが、その研究の実生活での活用状況についてふれてほしかった。
- 甲状腺ホルモンについてすごく興味深かったです。成長に関係していることをあらためて知りました。興味深いお話しありがとうございました。
- ヌタウナギとヤツメウナギが全く別物とは驚きです。名前で惑わされていました。今まで知らなかったことを知ることができました。ありがとうございました。